

【展覧会】

第 20 回滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～

第 20 回滋賀県施設・学校合同企画展



ボーダレス・アートミュージアム NO-MA が開館した当初から続く「滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～」は、今回で 20 回目を迎えます。

滋賀県内の福祉施設・特別支援学校等の職員と NO-MA が実行委員会を組んで展覧会を企画し、28 名と 2 組による作品を展示します。作者や支援員・教員の今を綴った、現在進行形の表現をご覧ください。



① ちらし画像

実行委員会の様子

昨年度の展示風景

展覧会概要

会期 前期:2023 年(令和 5 年)12 月 23 日(土)～ 2024 年(令和 6 年)1 月 28 日(日)

後期:2024 年(令和 6 年)2 月 3 日(土)～ 3 月 3 日(日)

会場 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA(滋賀県近江八幡市永原町上 16)

開催時間 11:00～17:00

休 催 日 月曜日(祝日の場合は翌平日)※展示入れ替え:2024 年 1 月 29 日(月)～2 月 2 日(金)

観 覧 料 一般 200 円(150 円) 高大生 150 円(100 円)※中学生以下無料

※障害のある方と付添者 1 名無料 ()内は 20 名以上の団体料金

主 催 第 20 回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアム NO-MA[社会福祉法人グロー(GLOW)]

後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店

助 成 障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金(滋賀県)

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部(ボーダレス・アートミュージアム NO-MA)

担当:橋本・赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

TEL:0748-46-8100 FAX:0748-46-8228 MAIL:kikaku@glow.or.jp

出展施設 ※50 音順、敬称略

[前期]あうとりーち和泉／伊香立の杜 木輝／近江学園／湖南ダンスワークショップ実行委員会／滋賀自閉症研究会たんぽぽ／信楽青年寮／社会就労センターあおぞら／じょいなす／ステップアップ 21／

第 2 ももスマイル／つつじ作業所／ひのたに園／ふくらの森

[後期]愛育苑／えがお／kama-moto／きみいろ／甲賀福祉作業所／信楽学園／障害者支援事業所いきいき／せいふう／第二出会いの家／能登川作業所／発達支援教室 ichi5／バンバン／瑞穂

[協力施設]アトリエひこうきぐも／祇王小学校／にっこり作業所

[アドバイザー]野原健司(美術家)

みどころ

支援者や教員が実行委員として参加し展覧会を開催

実行委員は約半年間、月に一度の委員会のなかで、お互いに持ち寄った作品の共有し、展示方法を検討。実際の展示設営作業も行いました。作品の魅力を伝える方法を試行錯誤し、完成した展示空間となっています。日々の生活の中で生まれた表現の「今」と、その生活に寄り添う職員の目線を生かした展示をお楽しみください。

紹介テキストも委員が執筆

委員は作家や作品を紹介するテキストを作成しました。さらに今回は年齢や障害の有無などに関わらず誰にでもわかりやすい情報提供を目的に「やさしい作品ガイド」も執筆しています。

ギャラリートーク&制作公開

各会期初日には作家や支援者などが NO-MA に集まり、「ギャラリートーク&制作公開」を開催します。制作の背景や作品に対する思いを聞いたり、実際に制作する様子をご覧ください。

ワークショップの開催

各会期に展示されている作品の制作の体験ができる常設のワークショップを開催します。前期と後期で様々な体験をお楽しみいただけます。

出展者紹介(広報画像用)

【前期】

② 吉田圭佑(ステップアップ 21)

作品を作るその姿は、まるで熟練の職人が一つ一つ丹念に作り上げていくかのようだ。

粘土を一つの太い棒状にまとめ、そこから適量を正確に迷い無くちぎり取る。

その粘土を指先で巧みに操り、球体や細長い棒状の形状を生み出す。それらを組み合わせ、目を二つ開けて作品は完成する。

彼が作り出すウサギたちは、同じ形、同じ大きさであり、整然と並べられる。下半身に巻きついているものは足なのだろうか。その表現方法は独特で、まるで小さなウサギがちょこんと座っているかのように見える。

今年になってから彼はウサギを作り続けている。その理由は今年の干支がウサギだからだ。

そして来年は、おそらく龍を作ってくれることだろう。



「うさぎ」2023 年

【後期】

③ 吉田勇斗(バンバン)

2019 年からバンバンに通うようになり、はじめは塗り絵のノートにくるくると円を描いていたが、「大きな絵を描いてみたい」という本人の希望により、事業所内で実施しているアトリエに参加するようになった。

車いすに取り付けたテーブルに画板を置き、制作する。画用紙の色やサイズを選んでから、36 色の色鉛筆の中から一本を選ぶ。大きく円を描くと色鉛筆の芯の部分がすぐになくなってしまうほど彼の筆圧は強い。また、画板をはみ出す大きな紙に描く場合は、円を描くたびに紙をくるっと回し、どこに描きたいのか考えて描いている。

最近では小さな円を画用紙の隅々まで描くようになってきており、制作に変化が出始めている。



「無題」2021 年

④ 橋本慶悟(能登川作業所)

毎朝、作業所に来てすぐ、日課である午後の踏み台昇降運動の最中に流す BGM を YouTube で探す。午後の決められた時間に織り機の前に座り、以前は職員が全ての糸を用意していたのだが、今は、自分の好きな横糸を選んで板杼(いたひ)に巻き、15 分間織ることを、ここ1年ほど続けている。シンプルなものから鮮やかな色合いのもの、変わった素材のもの等、選ぶものは日によって変わる。その後、踏み台昇降運動に取り組む。職員も一緒にするのだが、息切れするほどのテンポで毎日約 5 分間するのがルーティーンになっている。普段はもの静かなのだが、スマホやタブレットで会話するときは、よく見る YouTuber の口調を真似てか、「一十百千万点美味しかったですわー」「お名前教えてください。誰様？」など饒舌で流暢に今時の言葉がポンポン出てきて、ノリもまさに Z 世代。



「無題」2022 年

⑤ 河崎美湖(障害者支援事業所いきいき)

「トントントン……」リズムカルで心地よい音が部屋に広がります。

ペンを迷いなくサッと選び、選んだペンで彼女の世界を紙に表現していきます。

絵を描いているときの彼女は、自分の世界に没頭しサラサラと迷いなくペンを動かし一枚の絵を完成させます。

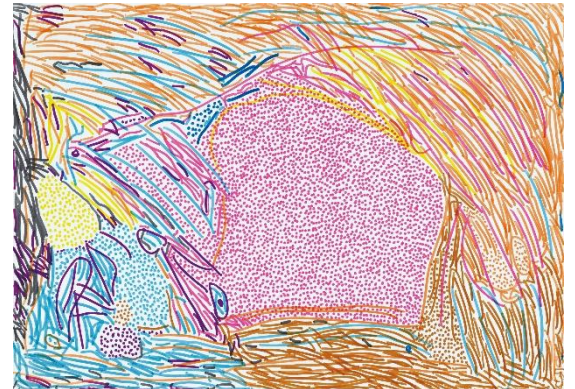
「これ何の絵？ 気になるなあ……」と職員が問いかけると「ふふ」と笑みを浮かべて返してくれます。どうやら何の絵なのかは内緒のようです。

彼女の描いた絵からは様々な想像が浮かび上がります。

作品の捉え方はあなた次第です。

さて、彼女の描いた絵からは何が思い浮かびますか？

今日も彼女は自分の世界を紙に描いていきます。



「無題」制作年不詳

⑥ 日下部伯生(瑞穂)

黒い太いマーカーペンを走らせた線の内側は、隙間なく全面を塗りつぶされている。塗り残しはかえって嫌なようだとお母様は話されている。絵を描くタイミングは家でお母様と過ごしているときに魚のニュースが出てきて魚を描いたり、姪が来たときに一緒に描いたり、職員の声掛けで数日間描き続けられることがあったり、数カ月描かない日が続いたり……と日常の中で気が向くがままに絵を描かれている。

動物や車の絵に色を塗り分けて描くのは本人の世界観で個々の認識の特徴を捉えているが何え、作品の下敷きに使っていた画用紙(作品名:がばん)は一種のアート作品のようである。



「がばん」2023 年

⑦ Kanno Kuniوشي Deleon(きみいろ)

この作品は、彼の「暇つぶし」「気まぐれ」によってできたものである。

どこで編み方や銅線同士のつなげ方を覚えたのか……職員もわからないままである。

お仕事が終わる、休み時間にもくもくと何かに取り組んでいるなど覗くと、すでに 1.2m ほどの銅線のモール? ができていた。

作者は、外国の方で、クリスマスやハロウィンなどイベントにはとても敏感。職員がツリーの飾りつけやモールの飾りつけをしていると真っ先に手伝ってくれる。この銅線アートも「モール」をイメージして作られている?

それとももっと深い意味があるのか……感性は未知である。



「銅線リース??それともなんだ??」2023 年

展覧会関連コンテンツ

ギャラリートーク&制作公開

作品や制作背景について作者・支援者が語ります。また、会場や映像で制作を公開します。

前期:2023 年 12 月 23 日(土)13:30~16:00

後期:2024 年 2 月 3 日(土)13:30~16:00

常設ワークショップ

出展作品の制作を体験できるような常設ワークショップを実施します。

<前期>

- ① 架空の地図をつくろう
- ② しがらきのためきを描こう

<後期>

- ① オリジナルの紙バッグをつくろう
- ② 写経をしてみよう
- ③ オリジナルの織物を織ってみよう

本展における情報保障について

「さわって楽しめるものがある?」「これが苦手なんだけど大丈夫?」「静かにしなくてもいい?」など、気になっていることや必要なサポートについて、合理的配慮の観点からできるかぎりの情報提供やスタッフによる対応を行います。

第 20 回滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)広報担当宛
FAX:0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字のせはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌(紙)、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名:『 』

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他 発売・放送予定日:

御社名: ご担当者名:

E メールアドレス: @

(〒 -)

ご住所:

お電話番号: FAX:

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

☐	① ちらし画像
☐	② 吉田 圭佑 「うさぎ」 2023 年
☐	③ 吉田 勇斗 「無題」 2021 年
☐	④ 橋本 慶悟 「無題」 2022 年
☐	⑤ 河崎 美湖 「無題」 制作年不詳
☐	⑥ 日下部 伯生 「がばん」 2023 年
☐	⑦ Kanno Kunioshi Deleon 「銅線リース??それともなんだ??」 2023 年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
担当: 橋本・赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2
TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228 MAIL: kikaku@glow.or.jp